

..... 編集後記

◆ 3月といえば、我が国では年度の締めくくり、学業では卒業の月でもあります。これまでを総括すると同時に、悲喜こもごもの年月を仲間と語り合っただけを惜しむ光景が目には浮かびます。地質調査総合センターの編集による本誌も、今月号をもって発行終了となりますが、卒業や別れの言葉とダブリ、編集活動の終了を惜しまずにはいられません。とはいえ、今月号で一区切りです。今月号は掲載が最後となった一般記事8編による構成となっており、いずれも読み応えのある興味深い記事が満載です。

◆ 本誌は、戦後の混乱から抜け出て本格的復興にさしかかった1953年に、当時の地質調査所の活動を広く一般に公開し、我が国の産業経済復興の一助となすべく第1号が発行されました。当所のアウトリーチの一つとして、実際の活動状況をお知らせして皆様に認識を深めてご協力を得ることを目的としていました。当初は僅か8ページの編集で隔月発行でしたが、特集号の発行で月刊に近い発行間隔となり、その後ページ数も増えていき、数年後には月刊の発行となりました。1961年10月号からは実業公報社のご協力の下に、広く内外の記事を収録して地学愛好家の読者の良き伴侶となるべく、地学専門の一般誌としての発展を目指してきました。半世紀以上の長きにわたった当センターによる編集が、読者の皆様のご期待に十分に添えていたのか一抹の不安もございますが、皆様の温かいご支援を頂きながら現在まで継続できたことに深く感謝申し上げます。

◆ さて、今月号では地調OBの山田氏が大日本帝国予察地質図シリーズの4回目になる、中国・四国地方の「西部地質図」の紹介をして下さっています。続く

磯部氏もOBの一人で、伊豆諸島の御蔵島に関する地質・地形等の情報を紹介して下さいました。情報の少ない昔や地域の話に、興味が湧いてきます。

◆ 杉原氏は、重力計を用いた興味深い測定結果を紹介しながら、孔内計測結果の意味するところやそのシミュレーション研究例を分かり易く提示しています。続いて同氏は二酸化炭素の地中貯留に関連した海底重力計の話として、2箇所で見聞した装置の模様や展望を紹介しています。一つの装置で話題が広がります。また、昨年組まれたリチウム資源の特集号の補足として、化学的な側面から見たリチウムの特性を金井が紹介させていただきました。

◆ 高橋氏による海外の地質情報の話題紹介は、今回は2010年夏の話です。デジタル化が地質調査現場にまで浸透してきたとはビックリで、他の記事も興味深い話題で視野が広がります。また、長森・玉生両氏は、小学校の理科授業で化石を教材として楽しい授業にした例を紹介して下さいました。最後の国分氏による「大地の友、ゲート」では、ゲートの地質学的調査活動・認識の5本柱が紹介されており、ゲートに対する認識も新たになることでしょう。

◆ 最近巷で謎かけが流行しています。「地質ニュース」とかけて「テラー仕立ての紳士服」と解く、その心は「どちらも記事(生地)がよい」。または「木目調の調度品」と解く、その心は「どちらも記事(木地)を楽しむ」。お粗末でした。それでは、皆様とはしばしのお別れです。長い間のご愛読、有り難うございました。別れは次への飛躍、新しいステップへの始まりです。今後の実業公報社や、当センターの新しい広報誌に皆様ご期待ください。(金井 豊)

地質ニュース編集委員会

委員長：金井 豊

事務局委員：宮内 渉

委員：重松紀生・杉原光彦・中嶋 健・森尻理恵・
七山 太・酒井 彰・高橋裕平

連絡先：地質調査総合センター

地質ニュース編集委員会事務局

〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-1

Tel. 029-861-3754 Fax. 029-861-3746

E-mail: g-news@m.aist.go.jp

地質ニュース	第679号	2011年	3月号
	定価¥785(本体価格¥748) 千実費		
2011年3月1日	発行		
編集	産業技術総合研究所		
発行人	株式会社 実業公報社		
	代表者 林 光生		
発行所	株式会社 実業公報社		
	東京都千代田区九段北1の7の8 〒102-0073		
	Tel.(03)3265-0951 Fax.(03)3265-0952		
	http://www.jitsugyo-koho.co.jp		
	E-mail: jk@jitsugyo-koho.co.jp		
	振替口座 00110-6-32466		
	麹町局私書箱第21号		

●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンターに常備してあります。また、最寄りの書店でも注文できます。

●地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ

©2011 Geological Survey of Japan